

### 第3回生物多様性こうち戦略（仮称）策定検討委員会の概要

- 1 日時：平成25年2月28日（木）10：30～12：30
- 2 場所：高知県民文化ホール 第6多目的室
- 3 出席者：策定検討委員会、事務局、アセス(株)

#### 4 概要

- (1) 委員長から、会議の到達目標（課題整理、理念・目標設定）を説明
- (2) 意見

##### ① 戦略書の構成について

委員より構成変更の提案があり、来年度、継続審議することが決まる

- 最初から「生物多様性とは」という固い話ではなく、高知県の人の暮らしや環境・生きものについての説明があった方が、一般の方にはわかりやすい
- 環境の部分は、森林を並べた方がいい。
- 戦略書はどちらでもいいが、パンフレットにはわかりやすさを取り入れる。読む人にわかりやすい、体系的に凝縮した普及版に。
- 序論の組み立て次第で生きる。

##### ② 行動計画について（愛知目標）

目標1 人々が生物多様性の価値と行動を認識する

- **優先順位高い**
- 遠くの自然は知っていても、地域の中の自然を知らない。
- 教員の認識不足（ドングリの実植えなどでも、その生態系を考えて植えないといけないという考えがない など）
- 子どもたちが主体的に行動できる環境教育の組み立てが必要。（野外活動で興味を持った子が、部活で離れる。一度離れてもまた、戻ってくるように感覚を養う。）

目標2 生物多様性の価値を国と地方の計画に統合し、適切な場合には国家会計や報告制度に組み込む

- 主要な議論ではないが、多様性の物差しを盛り込んでいくというのは重要  
（林業制度の計画の中に生物多様性の価値の認識を入れるような仕組み）
- 下地（制度的）が整ってこなければ実行に移せない。制度の改革・組み込みは必要

目標3 生物多様性に有害な補助金などの奨励措置を廃止・改革する

- 生物多様性という視点で、有害な補助制度はある。(圃場整備や、間伐など)
- 行政間に生物多様性の考え方が浸透し連携、意思疎通、協働が重要。
- 今回の策定事項にかかわる法律、県の条例と国の法律との関係を洗い出し、問題のある条例等にチェックを入れていく

#### 目標4 すべての関係者が持続可能な生産・消費の計画を実施する

- 県で実施している取組を整理して載せる。今回はあえて議論しない。

#### 目標5 森林を含む自然生息地の損失を半減、可能ならゼロにする

- 公共事業が影響を与えてきた。国も県も規定が整備されつつある。関連機関への啓発など、盛り込んでおく。
- 本来の川や自然の姿を伝えていかなければいけない。

#### 目標6 水産資源を持続的に漁獲する

- 漁業は壊滅的な状況になってきている理由がよく分からない。資源の枯渇も、獲り過ぎか、環境の変化か、獲る人の不足か。原因が複雑で錯綜している。

#### 目標7 農業・養殖業・林業がおこなわれる地域を持続的に管理する

- **優先順位高い。**
- 人口減少にともなう、第2の危機（今まで人間が使っていたところがアンダーユースになり、生物多様性が劣化していく）だけではなく林業や産業の部分まで含めて高知県の場合には一番深刻な問題。
- 問題が大きいところは中山間地帯。医療が原因で。中山間地農林業は持続可能なインフラ整備やコミュニティの構築など、安心して住めるような仕組みにすることが重要。
- 文化（生きる知恵、生態系を保全することに対してもスピリチュアルなもの）や祭りを含めて地域社会の維持ができなくなっている。（7と18はリンク）
- 生産性の向上が第一に言われるが、生産を持続させながら、生物多様性の保全、生物多様性を豊かにしていくために、今の取組みが、マイナスに働いているのか、プラスに働いているのか。マイナスの場合にはどういう改正ができるのか、県の関係部署が何ができるのかを整理してほしい。
- 現在の取組み（大規模木材供給）の見直しや、高知県への適合性など疑問をもちながら事業をしなければならない。

#### 目標8 汚染を有害でない範囲まで抑える

- 問題になってるところはあるが、他県に比べれば比較的軽い。
- 簡潔に記述はする。

目標 9 侵略的な外来種を制御し、または根絶する

- ダムでブラックバスなど影響はあるが、今後、他の部分でも猛威を与える危険性があるので、注意喚起はする。

目標 10 脆弱な生態系への悪影響を最小化する

- 優先順位はそれほど高くない。記述程度にとどめる。
- どこまでを入れるかが難しい。湿地はほとんど残っていないので重要。

目標 11 少なくとも陸域の 17%、海域の 10%を保護地域などにより保全する

- 国として考える。県はパス。

目標 12 絶滅危惧種の絶滅・減少を防止する

- わかりやすい指標だが、絶滅危惧種だけに捉われると問題。
- 一点に目を奪われずに、生息・生育地の保全につながるような施策を、全体を考えて保全をすべき。

目標 13 作物・家畜の遺伝子の多様性の損失を最小化する

- いろんな伝統的な食べ物とか生産物を残していく。文化的な視点のほうが、県民には取っ付きやすい。食文化は特に理解しやすいが、それだけでもない。
- 短期目標ではないが、特産品を守るとはずっと取り組んでいかないといけない。
- 地産外商、消費拡大の視点でも、目標 7 に結びつけて、長期的に取り組む課題。

目標 14 自然の恵みをもたらす生態系が回復・保全される

- **優先順位は高い**
- 中期目標に当たる部分。

目標 15 劣化した生態系の 15%以上の回復を通じ気候変動と砂漠化の問題に貢献する

- 森林を整備をして二酸化炭素を吸収させる
- 高知県の場合は、気候変動の話を目標 14 とリンクさせて記述する。

目標 16 A B Sに関する名古屋議定書を施行する

- 南北問題であり、地域戦略とはあまりかかわりがない。

目標 17 効果的で参加型の国家戦略を策定する

- 国家戦略を地域戦略に読み替えると、地域としては目標 1 に結びつける。
- この行動計画全体が参加型になるということと、既にある計画にプラス生物多様性の視点といれて取り組んでいかなければならない

- 県外では外国資本が奥山を買い占めているというようなこともある。一人ひとりがこの国の環境を守るという意識を持つことが重要。

#### 目標 18 伝統的知識を尊重する

- 目標 7 にリンクさせる。知識以外にも文化や祭り、精神的なものも含めて地域を支えるすべてのものを対象とする。

#### 目標 19 関連する知識・科学技術を改善する

- 科学の世界で行われていることが人々に伝わってないので、目標 1 にリンクさせる。
- 学者の中で異種間連携（地域の研究者と大学の研究者、設備に恵まれた都市の研究者と自然に恵まれた地域の連携）も促進すべき。
- 生物に配慮した土木技術も重要。目標 14 とリンク。

#### 目標 20 すべてのソースからの資金が顕著に増加する

- **優先順位高い**。教育、保全どの活動においても資金の組み立てがネック。
- 環境保全に興味を持たせるきっかけとして、協働の森活動などと互恵性（間伐材をもらって鳴子や巣箱を作る、子どもは森へ行って作業をする）をもたせて取り入れている。みんなで守る関係づくりが重要。
- 新しい雇用の在り方として、地域の人々を教育に巻きこんでいる。この賃金は国費。国の補助金を取りやすい支援が必要。
- エコツーリズムなどの観光収入。海やヤイロチョウの森など持続的な観光という形盛り込む。

### ③ 理念・目標について

#### 短期目標と中期目標の記述について

- 長期目標は夢みたいなもの、中期目標は、少し具体的だけれども、まだ夢を描くようなもの。
- 短期目標は、具体的な施策。中期目標にどれだけ近づけたか。愛知目標の優先すべき項目を高知県バージョンに置き換えて書いていく。
- 目標は、高知県の現実にあわせて「地域が維持されて賑わうことにより、地域資源が活用され、それにより生態系が保たれて回復する。」に変更
- 理念は、「豊かな生きものに囲まれて、美味しく楽しくずっと暮らそう高知県」としておいて、協議会の意見をきく。
- 将来像や目標は、方言で書けるぐらいわかりやすくする。